

教育の理念

法学部は、建学の理念に則り、社会的実践と深く結びついた学問分野である法律学と政治学の修学を通じて、現代社会の多様性に対する感性と理解力、また社会の中で必然的に生じる法的・政治的問題に対処する情報分析力と実践的な問題解決力を養成し、そうした能力を支える幅広い教養を培う。これによって、将来の職業生活を通じて地域社会さらには国際社会に対し責任をもって貢献できる人材を育成するための「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うことを本学の教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

法学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を、法律学および政治学それぞれの分野に即して身につけ、所定の期間在学し、各学科の定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に社会の発展に貢献することができる。

(DP2) 多様性理解と協働力〔理解、多様性、協働性〕

法学・政治学分野の専門知識はもとより、社会、人文、自然、ライフデザイン、様々な異文化に関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しつつ、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、また相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔知識、技能、思考力、判断力〕

現代社会における法や政治・行政に関する諸問題について、多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考し、問題発見や問題解決に解決する方策を効果的に発信することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔理解、表現力〕

レポートや論文等の文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

法学部の学生として、法と政治を基軸に社会・経済を見る眼を養い、体系的に修得した法学・政治学分野の知識・技能・技術を活用する能力を持つとともに、倫理観と社会的責任を身につけ、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている		学修評価の観点													
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性		
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	◎		
	DP2	多様性理解と協働力	○	◎						○	○	○	○	◎	◎
	DP3	情報分析力と問題解決力	○		○	◎	◎	○							
	DP4	コミュニケーション能力		○	○	○		◎					○	○	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					○	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために「駒澤人育成基礎プログラム」（全学共通科目）と法学部各学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。（「実用英語」では、「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。）このほか、日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 社会、人文、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 演習と講義科目を効果的に組み合わせた専門教育科目の体系的履修制度を通して、法と政治を基軸に、社会・経済を見る眼を養い、論理的思考力、分析力、問題解決力などの修得を促す。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。

- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、法律学科での学修につながる問題の発見・分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。
- 3) 演習科目（ゼミ）においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則少人数制による担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1～2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2～4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2～4	1～4		○	○		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2～4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

法学部は、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

1. 法学部の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解し、法学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現代の地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、他者と主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・高等学校で学習する教科・科目を幅広く修得すること。とりわけ「国語」「英語」をよく身につけていることが望ましい。さらに「世界史」「日本史」「公民（政治経済）」のいずれかについての素養があることも望ましい。
- ・コンピュータ機器の利用に慣れていることが望ましい。
- ・国内外のニュースに関心を持ち、日ごろから新聞や書籍、インターネットにより情報収集を行う。
- ・興味を持ったテーマについての課題発見・分析、及びそれについてのディスカッションやディベートを経験する。
- ・部活動・留学・ボランティア等の活動を通じ、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組む。
- ・論理性や語彙力を備えた文章力、ならびにコミュニケーション能力の向上に努める。

教育の理念

法律学科は、基礎的な教養たる法学の知識を習得させ、その上に立つ均衡のとれた判断能力を具備し、かつ、これを社会全体の健全な発展のために活用できる人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

法律学科は、本学、法学部および法律学科の教育の理念に基づき、下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、法律学科が定める単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

法学のみならず人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な異言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養とともに、専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、基本的人権を尊重する姿勢を日常生活において実現し、他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

様々な利害や見解の対立によって生じる紛争において、当事者の立場・利害を分析・理解した上で、これを調整し、適切な法的判断・思考に基づき解決する方策を考えることができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

各当事者の対立する利害や考え方の違いを確認し、その問題点を克服するための方法などについて、工夫をし、話し合いをすることができる。また、外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

法律学科の学生として、法と社会・政治・経済を見る眼を養い、高い倫理観と社会的責任を身につけるとともに、社会生活一般において、専門知識と技能を活かし、法的に思考・分析し、その解決策や結論に至る過程を論理的に説明することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている		学修評価の観点													
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性		
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	幅広い教養、多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	◎
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	◎	◎	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

法律学科は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために「駒澤人育成基礎プログラム」（全学共通科目）と法律学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門科目では、1年次に配置する「憲法」「民法総則」「刑法総論」を基礎科目とし、2年次以降、各学生のニーズに即して専門科目を段階的かつ体系的に履修することができるように、各専門科目を積み上げ型に配置する。
- 6) 専門演習科目（ゼミ）として、2年次以降、「基礎演習」（2年次）、「実務演習」（3・4年次）、「演習Ⅰ」（3年次）、「演習Ⅱ」（4年次）を設置し、専門力の養成を行う。科目の特性に応じ、教員や他の学生と対話を通じて、当事者間の紛争について、それぞれの当事者の立場・利害を理解したうえで、それを適切に調整して、法的に解決を図る力を身につける。
- 7) 専門科目として「法律学特殊講義」を設置する。「法律学特殊講義」では、基礎科目の展開科目、社会的関心の高い先端的な法領域の科目、具体的な社会問題と法の関係を探究する科目などを展開する。「法律学特殊講義」で取り扱う内容は、定期的に見直しを行う。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、専門科目の学修につながる問題の発見・

分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。

- 3) 専門演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、少人数教育を実践する。
- 4) 専門演習科目（ゼミ）では、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。また、大人数になりやすい専門科目においては、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。
- 5) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 6) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 7) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム 全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1・2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専門 教育 科目	必修科目	4	1		○	○		◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基幹となる知識を身につける。
	選択必修科目	4	2~4		○	○		◎	専門分野の基礎的な知識を体系的に身につける。
	講義科目	2~4	2~4	○	◎	○	◎		専門分野の知識を体系的に身につける。
	選択科目	2~4	1~4		○	○	○	◎	専門分野の多面的かつ応用的な知識を身につける。
	演習科目	4	3~4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密にコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

法律学科は、駒澤大学及び法学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

1. 法律学科の求める学生像

(AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得していること。「英語」「国語」について、よく身につけていることが望まれる。さらに「世界史」「日本史」「公民（政治経済）」のいずれかについての素養があることも望ましい。また、いわゆる文系科目のみならず「数学」「物理」「化学」の基礎力がある者も法律学を学修する上では役に立つ。

〔知識、理解、技能〕

(AP2) 本学の教育の理念を理解し、法律学科で学んだ知識や技能を生かし、物事を深く考察し、興味深い問題の発見やその解決に意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕

(AP3) 現代社会の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき分析・検討することに挑戦し続けることができる。〔思考力、判断力、表現力〕

(AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、基本的人権の尊重を日常生活において実現し、他者と主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

・「英語」：日本の法律は、欧米の法律を継受したものであるため、専門的な学修にあたっては外国語を運用する能力が必須である。英語能力（読む・書く・話す・聞く）については高校卒業時に一般的に到達しているレベル（英検 2 級・TOEIC L&R 550 点以上）が求められる。

・「国語」：法律の解釈・運用には法律そのもの、あるいは文献・資料の読解力や、論述力・表現力が必要である。そうした力は一朝一夕に身につくものではなく、高校時代を通じて、様々な文章に触れておくことが望まれる。現代文のみならず、古文・漢文も論理的に文章を読みこなすという能力を付け、また明治～昭和初期の文語体の判決文や法律学の文献を理解する上で、学習しておくことが望ましい。

・「世界史」「日本史」「公民（政治経済）」：法律や法律学は、さまざまな歴史的背景や社会的背景のもと成り立っているものである。したがって、高校時代に歴史科目ないしは政治経済を含めた社会背景について学習し、深く考察しておくことが、法律学を学修する上では大きな力となる。

・「数学」「物理」「化学」：法律学は論理力が求められる学問であり、いわゆる理系科目を高校時代にしっかりと学習することによって、そうした論理的な思考方法が身に付き、法律学を学修することに非常に役に立つ。

・コンピュータを主とした情報機器の利用：大学での学修では、調べることや、レポートや資料作成、あるいは発表など、あらゆる場面でキーボードを使ったコンピュータの利用が必須である。高校時代に基本的なソフト（ワープロ・表計算）については慣れておくことが望ましい。また、著作権などを意識して、インターネットを正しく利用できるスキル（インターネット・リテラシー）を身に付けておくこと。

・新聞等でニュースについて常に触れておくこと：上の「世界史」「日本史」「公民」のところで述べたように、法律学の学修にあたっては、様々な社会的背景や日本以外の国・地域の差異を認識しておく必要がある。現代の社会問題や国際問題についてアンテナを常に張っておくことが望まれる。

・いろいろな形で人と「協働」すること：法律学の重要な構成要素としては「人権」がある。他者の人権に対して意識的になり、多様性を尊重するために、部活動や委員会活動、社会的奉仕や留学など、積極的に他者に関わる活動が望まれる。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
大学入学 共通テスト 利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	中期	教科	◎		○		
	後期	教科	◎		○		
自己推薦 選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	フレックスB社会人選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		小論文	◎	○	◎	◎	
面接・口頭試問		○	◎	◎	◎		
フレックスB勤労学生・有職者特別選抜	出願書類	○	○			昼間に通学する機会に恵まれない、勉学意欲のある学生の受け入れを目的とする。定職に就いている者、定職に就くことが確定している者を対象とする。	
	小論文	◎	○	◎	◎		
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		
帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。	
	筆記	○					
	教科	○					
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		

外国人留学生選抜	出願書類	○	○			国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。
	日本留学試験 (成績)	◎				
	筆記	◎				
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類	○	○			大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。
	筆記	◎				
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
社会人編入学者選抜	出願書類	○	○			社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。入学時に満26歳以上であり、大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者等を対象とする。
	小論文	◎	○	◎	◎	
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	

教育の理念

政治学科は、政治学のみならず隣接科目を履修することにより、第1に感性と行動力を備えた実践的教養人の育成、第2に次代を担える知識と能力の涵養、第3に地域社会、国際社会で活躍できる人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

政治学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、法学部政治学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づいた自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる、駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、主体的に地域社会、国際社会、産業界の発展に貢献することができる。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

政治学のみならず社会、人文、自然、ライフデザインに関する多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、相手を思いやる態度を持ちながら他者と主体的に協働することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

現代社会における政治・行政に関する問題について、情報を収集・分析し、思考することにより、適正な判断を行い、それを効果的に発信することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

外国語の基本的技能を習得し、コミュニケーション能力を身につけ、異文化を理解し、自らの考えを表現することができる。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

政治学科の学生として、政治と社会・法・経済を見る眼を養い、高い倫理観と社会的責任を持つ人間性を持つとともに、専門知識と技能を活かし、論理的に思考し、分析し、問題の解決に取り組むことができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている		学修評価の観点													
		知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性		
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	◎		
	DP2	幅広い教養、多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	◎
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○							
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					○	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

政治学科は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために「駒澤人育成基礎プログラム」（全学共通科目）と政治学科の専門教育科目をシームレスに接続させ、有機的に結びつけた4年間の教育課程を編成する。教育課程の体系性をわかりやすく明示するために、科目間の関連性や学修順序を示すナンバリングや履修系統図（カリキュラム・マップ）を作成する。また、アセスメント・ポリシー（評価の方針）を策定し、これに基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。（「実用英語教育」では、「聞く」「話す」に重点を置いた英語教育を行う。）このほか、日本語の「読む」「書く」の基礎的なレベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 社会、人文、自然、ライフデザイン分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門科目では、1年次の学生に対して、政治学全般の入門としての「政治学基礎」と政治を考える土台となる「憲法」の2科目を全員履修科目として開講する。また、政治学の基本的理論と考え方の理解を深められるようにするため、「現代政治分析入門1」・「現代政治分析入門2」・「日本政治入門」・「現代政治理論入門」・「行政学・公共政策入門」・「国際社会入門」・「国際関係入門」の7科目の「選択必修・基礎」科目群を開講し、学生が自らの関心と2年次以降のカリキュラム選択の方向性に合わせて受講するように促す。

2年次以降は、コース制を設ける。各コースでは、それぞれ人材の育成方針を掲げ、学生が適切なコース選択をできるように配慮する。コースとして、「現代社会と政治コース」、「行政・公共政策コース」、「国際・地域研究コース」、「政治とメディア研究コース」の4つを設け、それぞれのコース毎に関連する「選択必修・基礎」科目群と「選択必修・発展」科目群を配置し、学生が適切な科目を受講するように促し、政治学への体系的な理解と実践を図る。コースは届け出制であり、選抜制ではない。

- 6) 演習科目として、2年次以降、「基礎演習」（2年次）、「演習Ⅰ」（3年次）、「演習Ⅱ」（4年次）を設置し、少人数教育を生かした専門力の養成を行う。科目の特性に応じ、教員や他の学生と対話を通じて、政治学におけるアカデミックな共同研究・個人研究や、政治問題・公共政策へのフィールドリサーチやディベート等、多彩な教育研究活動を実践する。
- 7) 専門科目として「政治学特殊講義」を設置する。「政治学特殊講義」では、基礎科目の展開科目、社会的関心の高い先端的な政治学領域の科目、具体的な公共政策を探究する科目などを展開する。「政治学特殊講義」で取り扱う内容は、定期的に見直しを行う。また、「実務者講座」「ジャーナリズム論」等、公務員・議員・ジャーナリストなどの社会人実務者を招いた特別形態授業科目を設置し、政治・行政・メディアの実務を幅広く学ぶ機会を提供する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 教養教育科目に配置されている「新入生セミナー」では、専門科目の学修につながる問題の発見・分析能力、論理的思考力、読解力、表現力等の基礎的学修能力を身につける。
- 3) 演習・実習科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を心がける。
- 4) 演習科目（ゼミ）では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則少人数制による担当教員による手厚い指導を行う。
- 5) eラーニングシステム等のWebシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 6) 成績評価の観点と成績評価基準を明確にし、教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 7) 学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標に基づく全学的な検証を行い、教育内容や教育方法の改善に積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1～2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	2～4	1					◎	専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2～4	1～4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2～4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

政治学科は、駒澤大学及び法学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

1. 政治学科の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、中でも「国語」「英語」についてよく身につけている。さらに、「地理歴史」「公民」「数学」「理科」のいずれか1教科についてもよく身につけている。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学の教育理念を理解し、政治学科で学んだ知識や技能を生かし、物事を深く考察し、興味深い問題の発見やその解決に意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 国・地域・グローバルな政治社会の歴史や現代の出来事について問題意識を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・高等学校で学習する教科・科目を幅広く修得し、とりわけ「国語」「英語」をよく身につけている。
- ・国内外のニュースに関心を持ち、日ごろから新聞や書籍、インターネットにより情報収集を行う。
- ・興味を持ったテーマについての課題発見・分析、及びそれについてのディスカッションやディベートを経験する。
- ・部活動・留学・ボランティア等の活動を通じ、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組む。
- ・論理性や語彙力を備えた文章力、ならびにコミュニケーション能力の向上に努める。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	中期	教科	◎		○		
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問(グループ討論)	○	◎	◎	◎	
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○			国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。
		日本留学試験(成績)	◎				
		筆記	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類	○	○			大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。	
	筆記	◎					
	教科	◎					
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎		